

2020年7月19日（日）
聖霊降臨後第7主日・創立130周年記念礼拝
銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞 「今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。
主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」

ネヘミヤ書8：10

主の祈り

使徒信条 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、
イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、
処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、
全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、
生ける者と死ねる者とを審きたまわん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、
身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

讃美歌 191

聖書 使徒言行録18章1～11節

18:1 その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。2ここで、ポントス州出身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が全ユダヤ人をローマから退去させるようにと命令したので、最近イタリアから来たのである。パウロはこの二人を訪ね、3 職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた。5 シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると力強く証しした。18:6 しかし、彼らが反抗し、口汚くののしったので、パウロは服の塵を振り払って言った。「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」7 パウロはそこを去り、神をあがめるティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は会堂の隣にあった。8 会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。9 ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。10 わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」11 パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

牧会祈祷

天の父なる神様、聖霊降臨後第7主日主日礼拝をおささげすることができる恵みに感謝いたします。本日は、銀座教会創立130周年記念礼拝として主日礼拝を守ります。世界全体が未曾有の出来事に直面したこの年、あなたの計らいにより、善き祝いの日が与えられましたことを感謝いたします。主を喜び祝うことこそ、私たちの力の源です。私たちの礼拝が神様の御顔の光に照らされ、慰めと力で満たされますように。銀座の地にあつて礼拝を守り続け、主が再び来り給うその時まで、神様から与えられる時々の使命にお応えしてゆくことができますように。主日礼拝、主日第二礼拝、夕礼拝をお守りください。正午礼拝、祈祷会をお守りください。礼拝と祈祷会によって支えられる、教会の全ての営みをお守りください。各委員会、基礎集団、組会、役員会の働きをお守りください。事務所の働きをお守りください。教会学校の働きをお守りください。試練の中にあつて始められた新たな取り組み—オンライン礼拝、家庭礼拝—をお守りください。私たちの礼拝が大きな一つの礼拝となり、神様への豊かな捧げものとみなされ、神様の栄光を力強く証しするために用いられることを願います。主イエス・キリストの御名を通してお祈りいたします。アーメン

説教 「恐れるな、語り続けよ」

高橋 潤 牧師

本日は、銀座教会創立130周年記念礼拝です。

銀座教会の130年は、牧師、副牧師、伝道師、協力牧師、婦人伝道師、協力宣教師、信徒説教者、教会学校教師を初めとして、数えきれない方々が、御言葉を語り続けた歴史です。銀座教会の大きな特徴は、音楽主任と聖歌隊による豊かな讃美と正午礼拝です。そして、組会を中心とする信徒の集まりです。婦人会、一麦会、青年会、どの集会でも聖書の御言葉が与えられます。語られた御言葉に讃美をもって応えた130年に感謝します。

本日与えられた聖書の御言葉は、パウロとその一行によるコリント伝道です。パウロたちは学問と政治の中心地アテネを離れ、商業都市コリントに入りました。一カ所に一年半というのは、パウロの伝道旅行地の中では大変長い滞在期間です。パウロたち一行は、コリントの信徒への手紙を読むと、アテネ伝道の困難ゆえでしょうか、衰弱していたようです。そのようなパウロに助け手が与えられました。ローマから来た二人に助けられたように、伝道には絶えず助け手が与えられるのです。アキラとプリスキラのように名前が記されている人ばかりでなく、多くは無名の方々によって、大切な助けが与えられ、御言葉を語る事が出来たのです。

銀座教会の145年の伝道においても、米国の宣教師はじめ、牧師や伝道者だけでなく、東京伝道のために多くの助け手が与えられ、伝道の土台が築かれていきました。

私たちはしばしば、自分は伝道のために何もしていない、役に立っていないと語ったり思うことがあります。しかし、第一に礼拝に出席していることが伝道の助けです。家庭礼拝で御言葉を読み、聞いていることが助けです。語られる御言葉を共に聞いていることが助けになっているのです。礼拝のために時間を割き、共に祈ること、なくてはならない伝道の助けです。パウロに助け手が与えられたように、銀座教会に多くの助け手が与えられていることを感謝いたします。讃美歌を歌うこと、聞くこと、神さまに心を開いている姿は、すべて伝道の良き助け手です。

伝道の助け手となったユダヤ人を紹介しましたが、コリントにはパウロたちに反抗し口汚くののしるユダヤ人もいました。そうかと思えば、会堂の隣に住んで、パウロたちを受け入れたティティオ・ユストのようなユダヤ人もいたのです。さらに驚くことは、シナゴグと呼ばれる会堂において、パウロたちを罵るユダヤ人の中から、こともあろうにコリントの会堂長クリスポが一家をあげて主を信じるようになりました。さらには、コリントに滞在するユダヤ人だけでなく、多くのコリント人が洗礼を受けました。

小アジア伝道の道が閉ざされ、ヨーロッパ伝道へ進むことになったパウロ一行は、伝道旅行の途上、様々な人々に出会っています。コリントだけでも多様なユダヤ人がキリストの福音に触れ、神のみ言葉を聞いていることは素晴らしいことです。

シラスとテモテがパウロに合流した後、パウロは御言葉を語る事に専念しました。彼らはユダヤ人が集まる会堂で伝道しました。しかし、会堂で罵られたので、パウロは服の塵を振り払って、会堂を出て行きました。どこに行ったかという、会堂の隣の家、ティティオ・ユストの家です。隣と行っても隣接していたのか離れていたのかわかりませんが、隣の家でパウロが語っていた主イエス・キリストの十字架と復活の話の続きを聞いたのかもしれない。その結果、会堂長クリスポとその家族が主イエスこそ救い主と信じるようになったのではないと想像します。お隣の家から聞こえてくる福音を聞いて、信じるようになったと思うと、神の愛の業がこのように行われたと思います。

現在、自宅での家庭礼拝報告の中には、普段教会に行くことのない家族に聞こえるように音量を上げてます、という報告をききました。現代版、ティティオ・ユストの家の話はいくつもあると思います。「コリントの多くの人々もパウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。」と記されています。

パウロの言葉とは、どのような言葉だったのでしょうか。パウロは、コリントの信徒への手紙一2章で、コリント伝道当時のことを記しています。

「1 兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。3 そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。4 わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした。5 それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。」

パウロがコリントに到着し、伝道を開始したときの様子が語られています。「優れた言葉や知恵を用いなかった」というのは、律法学者として知識や教養によって語るのではなく、十字架につけられたキリストをひたすら語ったということです。当時のパウロは、衰弱していて、恐れにとりつかれ、ひどく不安でした。しかし、語り続けたというのです。パウロは知識と教養があったから伝道することができたのではないと、はっきり告白しているのです。パウロたちのコリント伝道の成果は、パウロの力ではなく、衰弱したパウロを神が用いて、神の力を発揮する器としてくださったということです。

会堂長の一家が主を信じるようになったことも、多くのコリントの人々が主を信じるようになったことも、「パウロの言葉」を聞いたのですが、この「パウロの言葉」とは、パウロの知恵ではなく十字架につけられたキリストであり、神の力によったのです。

パウロは、話術や知識、経験の豊かさによって、人々がキリストを信じるように願ったのではないのです。そうではなく、自らを神に用いていただく器として差し出し、人間の力ではなく神の力によって信仰が与えられることを信じて伝道したのです。

衰弱し、恐れに取りつかれ、ひどく不安だったパウロに主は、語りました。

「9 ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。10 わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」

銀座教会創立記念礼拝において私たちに与えられた御言葉です。創立 131 年に向かって伝道する私たちは、自分自身を見つめて語る言葉を探すのではなく、キリストの十字架を語りたくて願います。キリストの十字架を語ることは、十字架上のキリストの祈りを聞くことです。キリストの生涯を通して十字架に集中することです。

神がパウロに先立って伝道しておられたように、私たちに先立って、全ての伝道者に先立って伝道しておられる神により頼んで伝道してまいりましょう。私たちは神の伝道に加えられているのです。神の伝道に巻き込まれ、もがくことも、恐れることも、不安にさいなまれることも、衰弱することもあるでしょう。しかし、それ以上に、神が共におられ、神に用いられる喜びが与えられるのです。私たちの前には、先だって道を照らす十字架の主イエスが
おられるのです。

祈り

天の父なる神さま。145 年に亘る銀座教会の伝道に絶えず先立って導いてくださり感謝いたします。私たちの先達を用いて伝道を進めたように、今日から、私たちを用いてくださることを感謝いたします。私たちが十字架のキリストを見つめながら、福音を語る者として用い、導き、あなたの御名をほめたたえさせてください。福音を必要としている大勢のあなたの民に福音を届けさせてください。主イエスキリストの御名によって祈ります。

祈 禱 (各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 銀座教会創立 130 周年をおぼえて

臨時教会総会をおぼえて、今年度を平安のうちに歩み切るために

東京教区総会をおぼえて

夏の豪雨に苦しむ方々をおぼえて

讃美歌 2 2 5

献 金

頌 栄 5 4 4

祝 禱 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン